

第 3 編

長期構想

長期構想 ～次の世代につなぐ7つの構想～

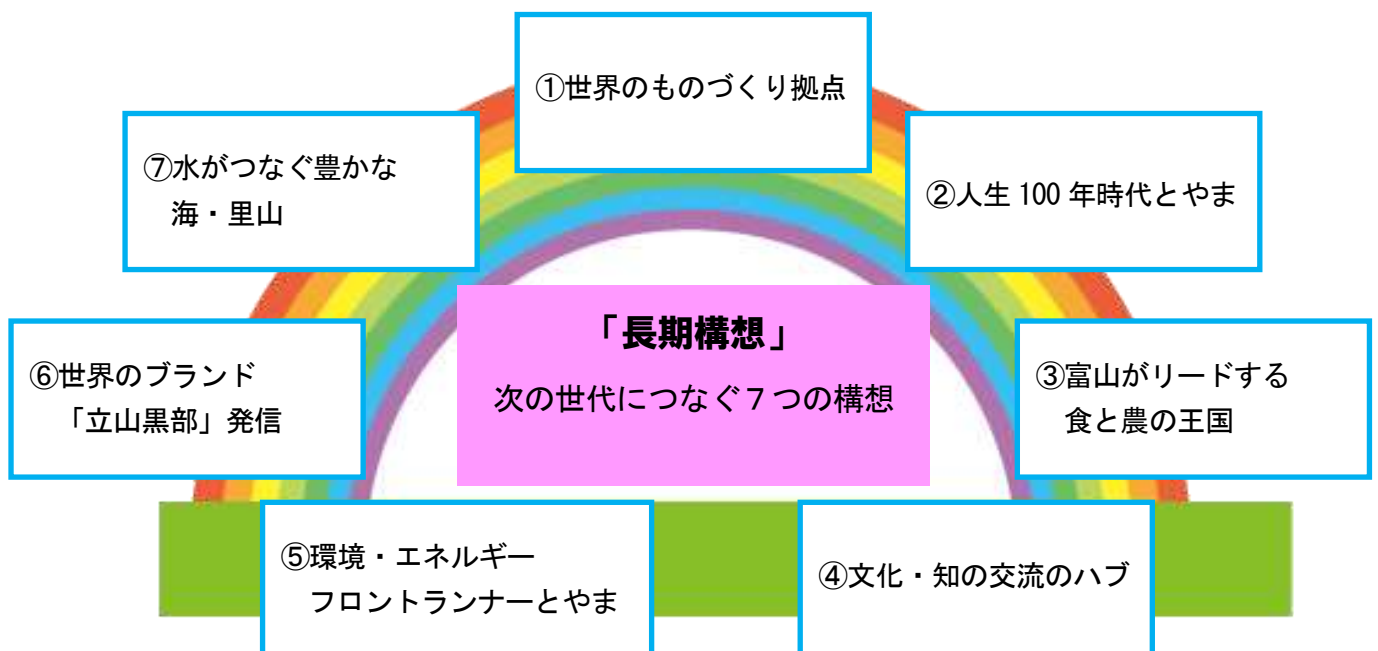
この計画では、目標年次を2026年度に設定し、各分野において政策を着実に展開していくこととしていますが、計画期間（10年）よりもさらに長期的な展望に立ったビジョンを描いて、県民の皆さんが将来への希望を持って活動し、活力と魅力あふれる富山県を次の世代、その次の世代に引き継いでいくことも重要です。

このため、「第3編 長期構想」では、「第2編 基本計画」の100の基本政策・重要政策の目標や取組みも踏まえつつ、県づくりの4つの視点（新たな価値創出、グローバル新時代、ふるさと、人づくり）をキーワードとしながら、20年から30年後における富山県の姿、県民の生活がどのように発展・充実しているかをイメージできるような、富山県の将来への飛躍につながる取組みをお示ししています。

この長期構想のテーマとして、20年、30年後の富山県の飛躍・発展という観点から、①先進的なものづくりとグローバル展開、②医療・健康と共生社会、③豊かで安心できる食、④活発な文化、学術、⑤快適な環境・まちづくり、⑥雄大な山岳地の魅力発信、⑦豊かな水と海・里山の7つの分野を選定しました。

そして、これらの分野において、本県の特徴を生かした将来に希望の持てる取組みを盛り込むとともに、計画期間内には技術的、財政的な制約などから実施が困難と見込まれるものの、将来的に、技術革新の進展や具体化に向けた様々な条件整備等が行われれば実現できると考えられるものもあげています。

この構想の取組みを参考に、県内外の企業や団体、そしてチャレンジ精神旺盛な多くの県民の方が、今後の県づくりの主役として、富山県の新たな成長・飛躍に結び付け、活力と魅力あふれる県として、次の世代に継承・発展させていくことに取り組んでいただくことが期待されます。



長期構想一覧

1 世界のものづくり拠点 構想
世界に誇るものづくり技術開発・生産拠点の形成
陸・海・空の総合的交通網による日本とアジアの架け橋
とやま企業の世界展開
2 人生 100 年時代とやま 構想
「世界に注目される薬都とやま」の創出
最先端技術とホスピタリティの融合による「地域ホスピタル」の形成
「とやま次世代共生社会」の追求
3 富山がリードする食と農の王国 構想
ハイクオリティな「TOYAMA 食材」のグローバル展開
スマート農林水産業の推進
食と農の王国の魅力発信
4 文化・知の交流のハブ 構想
富山発 世界の文化交流拠点
知のグローバルネットワーク形成
世界に通じる人材の宝庫
5 環境・エネルギーフロントランナーとやま 構想
とやま型スマートシティの形成
環境にやさしいエネルギー技術の開発
快適環境空間の形成
6 世界ブランド「立山黒部」発信 構想
立山・黒部の文化発信拠点の形成
「世界の山岳観光地」の形成
7 水がつなぐ豊かな海・里山 構想
「美しい富山湾」プロジェクトの推進
海・山・水を活かした里山生活の形成
「水の王国とやま」の発信

1. 世界のものづくり拠点構想

取組みの内容

《趣旨》

情報・通信技術が飛躍的に進歩、普及し、グローバル化が加速度的に進展していく中において、本県のものづくり産業は経済成長がこれからも続くこと見込まれる中国、ロシア、東南アジア、インドなど環日本海・アジア地域にとどまらず、今後人口が大幅に増加すると見込まれるアフリカなど、世界全体の成長エネルギーを取り込みながら、国際社会での存在感を高め、大いに発展していくことが期待されます。また、北陸新幹線の大阪延伸や高速道路ネットワーク、空港・港湾の整備充実により、本県の広域的な交通・物流ネットワークは、飛躍的に向上し、国内外との交流の活性化が一層見込まれています。

今後、本県のポテンシャルを大いに活かしながら、環日本海、アジア、さらには世界へと視野を広げ、研究開発拠点・高付加価値拠点の強化や文化との融合による次世代型イノベーションの推進、最先端の生産拠点やデザイン拠点の形成、環日本海・アジア地域のゲートウェイ機能のさらなる充実、最前線に打って出るグローバル戦略の展開などを通じ、世界のものづくり拠点として発展することを目指します。

《主な取組み》

◎世界に誇るものづくり技術開発・生産拠点の形成

<世界が欲しがる次世代技術の開発>

- ・世界中の企業・研究者が集う、産学官金が連携したオープンイノベーションによる国内屈指の試作品・先端材料の研究開発拠点の形成
- ・体内に埋め込んだセンサにより、健康状態の管理、がんなどの病気の早期発見が可能な医療システムの開発
- ・植物などのバイオマスを原料とした、環境に優しいバイオプロセスによる工業原料生産技術の開発
- ・アルミ技術等を活かした宇宙用大型構造物（ロケット燃料タンクなど）、宇宙太陽光発電(送電)システムの開発

<世界最先端の生産拠点の形成>

- ・国際競争の最前線を牽引する、次世代航空機クラスターの構築（超低燃費で高性能の環境配慮型航空機の開発など）
- ・高機能素材の組み合わせによるマルチマテリアルを活用した材料の加工技術や生産システムの開発等により、「完全自動走行の電動車」の部品生産拠点の形成

取組みの内容

- ・産業用・家庭用次世代ロボットの生産拠点の形成（人工知能を備えた産業用・家庭用ロボット、医療・介護ロボット等の開発）
- ・富山のデザイン力を活かした商品開発の強化による、日本のプロダクトデザインをリードする「デザイン拠点 TOYAMA」の創造

◎陸・海・空の総合的交通網による日本とアジアの架け橋

<環日本海・アジアの拠点港湾 伏木富山港>

- ・SLB（シベリア・ランド・ブリッジ）の活発化と北東アジア物流ルートの形成（シベリア鉄道を活用した鉄道・船舶の複合一貫輸送の定時・高速化、中国やモンゴルなどの鉄道も組み合わせた物流網の実現）
- ・新興国等とのコンテナ定期便化や荷役24時間自動化などによる、アジアの拠点港湾化（高速交通網を活かした3大都市と環日本海・アジアの結節点）

<「いつでも行ける」国内外とのビジネスネットワークの形成>

- ・北陸新幹線の大阪延伸を契機に、北海道から九州までの新幹線ネットワークと県内の地域交通ネットワークによるストレスフリーで利用できる交通インフラの整備
- ・低燃費で航続距離が長いリージョナルジェットの利用等による、富山きときと空港と国内の各地域やアジアなどの諸外国との航空ネットワークの充実
- ・富山きときと空港におけるプライベートジェットの就航（国際プライベートジェット専用ターミナルの整備など）

◎とやま企業の世界展開

<国際ビジネス基盤の形成>

- ・今後の高度成長が見込まれる国や地域との新たな経済交流の促進（南米、アフリカなど）
- ・世界の市場として発展著しいインドや東南アジアのみならず、アフリカ等の新興国も視野に入れた「とやま産業海外展開支援機構（仮称）」を官民一体で設立（農林水産物や工業製品、伝統工芸品等の輸出促進、企業の海外展開支援、対日投資の促進、留学生受入れ等を専門集団のサポートによりワンストップで実施）
- ・世界中から企業・NPOが集積する「国際ビジネスパーク」の形成（地理的優位性や高い技術力を活かした県内における海外企業の集積拠点）

2. 人生100年時代とやま構想

取組みの内容

《趣旨》

日本人の平均寿命は今後も伸び続け、生まれた子どもの半数以上が100歳を超えて生きるとの推計もあり、まさに人生100年時代がやってくると言われていています。また、本県は、2030年頃には高齢者の割合が3人に1人を超える超高齢社会を迎えることが見込まれており、県民がより健康で充実した生活を過ごす社会を形成していくことが求められます。こうしたなか、本県は、300年以上の歴史と伝統を有する医薬品産業の近年の大躍進や、世界の薬都スイス・バーゼル地域やアジア諸国との交流、医薬・バイオ分野での研究開発、充実した周産期医療やがん診療体制、全国に先駆けて整備・普及が進む地域共生型福祉拠点など、医療・健康・福祉の分野で、非常に高いポテンシャルを有しています。

また、人口の減少、AI・IoTの急速な進展など、社会環境がこれまでに経験したことのないレベルで変化する中、人々の暮らし方や働き方についても、本県の全国トップクラスの住みやすい環境を活かして、地域や個人に合った柔軟なものに変えていくことが求められています。

本県の優れた伝統を活かしつつ、医薬品やライフサイエンスの分野における世界的な研究開発・生産拠点の形成を図り、最先端技術を取り入れた地域での医療の充実を図ることを目指します。そして、人々の多様なライフスタイルに応じて働くことができる環境が整備され、地域において、時間や空間に関わらず誰もが働けるとともに、健康で安心して暮らし続けることができる県づくりを進め、健康、元気な「とやま次世代共生社会」を目指します。

《主な取組み》

○「世界に注目される薬都とやま」の創出

＜世界に誇るライフサイエンスの研究開発拠点＞

- ・ 県立大学等の研究成果を活かした、世界をリードするホワイトバイオ技術の研究開発拠点化（酵素反応や微生物発酵などを活用した有用物質の大量生産の実現など）
- ・ 「くすりの富山」の歴史や県薬事研究所の研究成果、県内大学等における医薬品産業を支える人材育成を通じた、バイオ・医薬・健康関連製品の世界的な研究開発拠点の形成
- ・ 製造技術力や製剤開発力を活かした世界に通用するスペシャリティファーマの集積
※スペシャリティファーマ：得意分野において国際的にも一定の評価を得る研究開発力を有する新薬開発企業
- ・ 医薬品分野と他分野のものづくり技術が融合した最先端の医療、医薬品、医療機器の研究開発の推進
 - ▶ 医療 …アルツハイマー型認知症の予防・治療、免疫療法、iPS細胞による再生医療、遺伝子治療など
 - ▶ 医薬品 …県薬事研究所の研究成果を活用した副作用の少ないがん治療薬、バイオ医薬品など
 - ▶ 医療機器 …生体センサ、カプセル内視鏡、手術用ロボットなど
- ・ 未病診断薬を使った遺伝子診断の普及（病気予防が可能となり、健康長寿100歳が一般化）
- ・ 再生医療の人工臓器の作成などに係る開発や関連する資材・機器の生産拠点の形成

＜世界に広がる富山のくすり＞

- ・ スイス・バーゼル地域との交流やPMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）の活動等を通じて、世界の研究機関や医療関係者、薬事行政官とのネットワークを構築し、高品質な医薬品等の国際展開を推進

取組みの内容

- ・薬用植物のブランド化や和漢薬の学術拠点の形成、伝統医薬の世界的な情報ネットワークの構築
- ・配置薬システムの世界展開（途上国などで普及）

○最先端技術とホスピタリティの融合による「地域ホスピタル」の形成

<ICT を活用した先端的地域医療・健康づくりの推進>

- ・VR（バーチャルリアリティ）技術による遠隔医療の定着（医師が遠隔地の患者と直接向き合っているかのように、触診したり、口臭・体臭などを感じたりできる遠隔診察システムなど）
- ・血圧や活動量等が測定可能なウェアラブル端末等を活用した電子健康手帳、生涯電子カルテによる各人に応じた健康・医療サービスの提供（医療機関とスポーツクラブ等の地域の健康施設が個人の健康・治療情報を共有してサービスを提供）
- ・テイラーメイド型の健康管理の実施（個人別配合医薬品、住宅内の床埋め込み式身体情報感知装置など）

<ホスピタリティあふれる医療の提供>

- ・AI等の活用による効果的・効率的な医療の提供と、AI等では代替できない専門性の高いホスピタリティにより患者の不安を緩和し、信頼関係を築くことができる人材の育成による、温かみのある医療の提供

○「とやま次世代共生社会」の追求

<切れ目のない相談・支援サービスの提供>

- ・タブレット・ウェアラブル端末を活用した子どもや高齢者等の見守りや支援や、医療・福祉の切れ目のない提供、ターミナルケア（人生の最終段階における医療）の充実などによる、だれもが地域でゆりかごから最期まで生活できる環境の実現
- ・困ったときにいつでも相談（育児、介護、障害、貧困等に関すること）ができ、見守りなどのサービスの提供も受けられる総合的ワンストップサービスの一般化
- ・いつも側にいる見守り・生活支援ロボットの普及（要支援者・支援者双方の介護負担を軽減する生活支援・介護ロボット、一人暮らし高齢者の見守りロボットなどの開発、リースサービスなどの普及）

<ICT等の活用による誰もがいきいきと働きながら安心して暮らせる社会の構築>

- ・若者に高齢者支援の実施を条件に空き家を安価に賃貸し、高齢者はこどもの預かりや若者も含めた食事の提供などを行う、地域における若者と高齢者の支え合い活動の推進
- ・従来の正社員、非正規社員といった概念にとらわれずに、自分に合った働く場所と時間を選べる柔軟で自由な第三の働き方を可能に（サテライトオフィスの整備、テレワークの普及）
- ・歩行支援などのロボット技術や、コミュニケーションが困難な障害者等が自分の考えを可視化・言語化して伝達する技術の活用促進、農福連携の推進などによる障害者が活躍する場の拡充
- ・AI・ロボット化による家事・育児・介護の負担軽減技術の活用を促進し、女性の潜在労働力を引き出す
- ・AI等で代替が難しい対人サービス等の業務や、ICTを活用した高齢者による若者の遠隔指導、さらには高齢者の起業に対する全面的なサポートなどによる、高齢者が活躍する場の拡充
- ・サービス産業、オフィス業務等へのAIの導入により大幅な省力化を図り、更に高度な付加価値を生み出す業務へシフトする仕組みの構築

3. 富山がリードする食と農の王国構想

取組みの内容

《趣旨》

日本の農林水産業を取り巻く環境は、従事者の高齢化や安価な輸入品との競争激化、人口減少による国内市場の縮小の懸念など非常に厳しくなっています。しかし、消費者のニーズは、より高品質な食品や、衛生的で安全な食品を求めるなど、さらなる多様化が進むとともに、アジア諸国などを中心に世界的には人口の増加や富裕層の増加による消費の拡大が見込まれており、消費者の趣向に合った農林水産物の提供や海外市場への進出に勝機を見出していくことが重要です。

本県は豊かな食を育む農地や富山湾を有し、米、水産物、特産品等、全国に誇りうる食材が豊富で、多様な食文化も受け継がれており、今後も、これらを十分に活かし、本県の食材・食文化が国内外に通用する商品となるよう、戦略的な商品や生産・流通技術の開発、安全かつ衛生的な生産の促進、ブランド化や農産物の輸出等に取り組みます。あわせて、環境問題や地域活性化など多様な観点から農林水産業をとらえ、他分野との連携を図りながら、これらの課題への対応にも貢献していきます。

《主な取組み》

○ハイクオリティな「TOYAMA 食材」のグローバル展開

<世界を視野に入れたブランド品種の開発・販路開拓>

- ・新たな加工適性や、機能性（脂肪蓄積抑制や高ビタミンなど）、耐高温性など優れた特性を持つ米（高アミロース米など）、野菜、薬用作物等の新品种の開発及び産地化の推進
- ・医療・健康産業との連携による食品の高機能化（抗アレルギー、特定栄養素の高い食品など）の開発
- ・チューリップの遺伝子資源を活用した花期の長い品種の開発や、県農林水産総合技術センターで開発した青いチューリップなど希少性の高い品種の大量生産の実現
- ・種籾の優良遺伝子資源を活用した多収穫米の開発や、品質・収量の安定したオーダーメイド型種籾の生産・輸出など「種籾王国とやま」としての世界の食料確保への貢献

<富山農林水産物等エクスポート拠点の整備>

- ・伏木富山港や富山きときと空港における農林水産物輸出ターミナルの整備や冷凍・冷蔵技術の導入による県産農林水産物等の海外輸出の推進（コメ・コメ加工品、日本酒、水産物・水産加工品など）
- ・香港、シンガポール、欧米などのグローバル都市の富裕層向けの日本食レストラン等へ高品質で付加価値の高い富山県産食材の供給

取組みの内容

○スマート農林水産業の推進

<最先端の農業技術開発の推進>

- ・ ICT やセンシング技術、ロボット技術による農産物・水産物の高度生産管理システムの開発、導入
- ・ 熟練農家が保有している優れた農業技術や判断力を短期間で習得できるよう、情報の蓄積・共有を行う AI（農業情報科学）農業の導入促進と、ICT や AI を活用できる担い手の育成
- ・ 安全で衛生的な植物工場による農業生産の実施と、植物工場に適した小型野菜の開発

<資源・環境に配慮した農林水産業の確立>

- ・ 天然のいけす「富山湾海洋牧場」の形成（大規模養殖へのチャレンジ（アカムツ、キジハタなどの高級魚の養殖、イワガキや海藻類などの無給餌養殖、表層から深層までの多層型養殖）、ICT 技術を活用した定置網内の魚群の遠隔監視による水産資源管理型漁業の実施）
- ・ 「スギ花粉症ゼロ社会」の実現と次世代への豊かな森の継承（優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の全国普及、県産材を使用した CLT（ひき板を直交方向に積層した材料）工法による木造建築物への活用促進）
- ・ 農林畜産廃棄物や食品廃棄物の肥料化や再生エネルギー化などによる 100%循環型農業の実施

○食と農の王国の魅力発信

<食と農による賑わいづくり>

- ・ 富山県産の地場野菜・果物や越中料理をはじめとした伝統的調理方法を外国人料理人が研修できる場の整備など、富山の食文化の海外展開
- ・ 新幹線などを利用した「週末は富山で米・野菜づくり」などによる都市住民の半定住や、外国人によるグリーンツーリズムの推進
- ・ 県産食材を活用した各国料理を提供する食文化交流イベントを開催し、国内外からの観光客誘致、県内シェフの育成、県産食材の販路開拓等を実施

<食と農を活用したビジネスの推進>

- ・ 富山の野菜・フルーツを活かしたとやまスイーツの世界ブランド化や、国内外の日本食レストランとの個別取引の拡大による年商 1 億円農家の増加
- ・ 産地、流通経路、生産・流通に係る二酸化炭素排出・吸収量など食品に関する多様な情報が、手に取るだけで分かる高度トレーサビリティ技術の開発

4. 文化・知の交流のハブ構想

取組みの内容

《趣旨》

本県では、東アジアを中心とした経済交流、世界的な舞台芸術をはじめとする国際文化交流など様々な分野で、国際交流が活発に行われるとともに、今後の成長が見込まれるインドや東南アジアなどとの交流も深めてきています。また、北陸新幹線や高速道路など高速交通網の整備が進むとともに、富山きときと空港や伏木富山港の機能が着実に充実強化されており、これらを活かした環日本海やアジア交流の一層の進展が見込まれています。

また、本県は子供たち一人ひとりの個性や能力を育む熱心な教育活動の展開に加え、富山ならではの質の高い教育を行っていくための特色ある取組みや環境整備である「富山スタンダード」やふるさと学習にも取り組むなど、ふるさと富山に誇りと愛着を持ち広く世界に目を向け、地域社会や全国、世界で活躍し、未来を切り拓く人材の育成に取り組んでいます。

今後は、こうしたこれまで培ってきた優れた基盤を大いに活かし、未来を自ら切り拓く人材、富山県人としてアイデンティティを持ったグローバル人材を育成していくとともに、文化、観光、教育、県民生活、企業活動など様々な分野で国内外の人々とのつながりを形成・強化し、クリエイティブで訴求力の強いコンテンツを生み出し続け、富山県が世界における文化・知の交流の中核として発展していくことを目指します。

○富山発 世界の文化交流拠点

＜世界をリードする芸術拠点の形成＞

- ・国内外の演劇人や芸術文化に高い関心を有する若者や熟年層向けのトレーニング・プログラムや座学の実施、国際的な視野を持つ舞台芸術を担う人材や舞台芸術に高い関心を持ちサポートする人材の育成
- ・「とやま世界こども舞台芸術祭」などの県内の世界に誇る文化イベントの発展などを通じた、国内外の子ども・若手芸術家が集う芸術文化拠点の形成
- ・アジア諸国の教育・文化機関や欧米の芸術家等と連携した世界最高レベルの舞台芸術の祭典の定期的な開催など、国際的に優れた舞台芸術作品の創造と発信
- ・文化施設の改修時に、音楽、舞踊等の創作活動家が舞台と同様の規模・環境で練習し、交流できる機能を持たせるなど、創造・訓練の拠点形成

＜とやま文化の世界展開＞

- ・デザイン性に優れた富山の伝統工芸ブランドの海外展開（アートの中心であるパリやデザイン交流のあるミラノ等に販売直営店が進出）
- ・「大伴家持文学賞」を受賞した世界の優れた詩人の業績や、越中万葉や大伴家持などの文芸やアニメなど幅広いジャンルの本県ゆかりの作品を高志の国文学館が中心となり世界や国内の文学館とのネットワーク化を通じて国内外に発信（高志の国文芸（「TOYAMA literature」）の確立）
- ・本県の工芸文化、富山県美術館や立山博物館などの文化施設、文化財など、とやまの魅力ある文化芸術資源を活かした「文化芸術クラスター」を形成し、観光客の誘客・産業振興や、人材の育成による新たな地域文化の創造
- ・富山発「クール・トヤマ」でアニメや漫画のコンテンツ創造拠点の形成（アニメ・ヴィレッジの形成、東海北陸自動車道～能越自動車道沿い（南砺～氷見）におけるアニメツーリズムのメッカ形成）

取組みの内容

- ・富山バーチャルミュージアムの実施
(富山の伝統芸能や自然風土、県内美術館の収蔵品等をVR(バーチャリアリティ)を活用し、映像、音、においなどの五感をもって臨場感あふれる鑑賞や体験ができるコンテンツの提供)
- ・本県の風景、町並み、自然、歴史的建造物などを最大限に活かして「とやままるごと映画村」としてPRし、国内外からの映画ロケの誘致推進

○知のグローバルネットワーク形成

<知のネットワーク形成の推進>

- ・NOWPAP等の環日本海沿岸地域との取組みを通じた、環日本海・アジア大学機構の設立による県内大学と環日本海・アジア地域の大学との知のネットワークの形成(教員相互派遣等の実施など)
- ・高等教育機関の連携による外国企業との共同研究等を行う体制の構築
- ・県内高等教育機関や高校が共同して語学教育や外国人留学生と日常的な交流を行う体制の構築
- ・次世代ネットやモバイル上で構築したプラットフォーム(バーチャルコミュニティ)により、県民と国内外の富山サポーター(県出身者、県内赴任者やALT経験者など県ゆかりの者)とのネットワークを形成し、富山サポーターと県民による異文化交流を実施(伝統工芸、食、配置薬システム等)

○世界に通じる人材の宝庫

<グローバルの人材育成システムの形成>

- ・国際学会等での研究成果発表の卒業単位認定や海外留学の必修化など、県内大学及び高校の国際化の推進と国際的人材の育成
- ・学生の大半を海外からの留学生が占める多文化・多言語のグローバル大学の誘致など、優秀な留学生の受入れの推進
- ・幼児期から高校に至るまでの体系的な英語教育プログラムや、英語でふるさとを学ぶ教育、富山の豊かな自然を体感しながら英語を学ぶ英語キャンプの実施
- ・富山を世界に紹介する小・中・高校生「とやまジュニアガイド」の育成(SNSなどを利用して定期的に英語で富山を発信、県内の国際会議や交流イベントで高校生がボランティア通訳や案内役として活躍)

<未来を自ら切り拓くことができる人材の育成>

- ・AI等を使いこなしたクリエイティブな活動で、富山にイノベーションを起こす人材の育成
- ・異なる文化や考え方を持つ人とのディスカッションやディベートの授業への活用・アクティブ・ラーニングの推進・ICTリテラシーの育成、プログラミング教育等による論理的思考力の育成
- ・産官学による「キャリア教育コンソーシアム(仮称)」の設立、幼児期から高校までの体系的なキャリア教育プログラムの開発
- ・県立大学において、高度なレベルのデータサイエンティスト(AI、ビッグデータ解析のキーマンとなる技術者)の育成

5. 環境・エネルギーフロントランナーとやま構想

取組みの内容

《趣旨》

本県では、全国初の県単位でのレジ袋無料配布廃止やとやまエコ・ストア制度の創設など県民総ぐるみでの環境保全活動が活発に行われており、2016年に開催されたG7 富山環境大臣会合では「富山」の名を冠した「富山物質循環フレームワーク」が採択されるなど、本県の環境分野における取組みは高い評価を得ています。

さらに、全国第2位の包蔵水力を活かした小水力発電の整備が盛んに行われているほか、豊富な地熱資源量を活かした地熱発電所の建設調査、バイオマス発電所の設置、水素等の新たなエネルギーの利活用に向けた研究開発が行われるなど、エネルギー分野においても大きなポテンシャルを有しています。また、植生自然比率は本州随一であるなど豊かな自然環境に恵まれており、散居村や水辺のまちなど、地域の風土や伝統・文化と調和した快適な環境が受け継がれています。

今後、環境・エネルギーに関する本県のこうした「強み」をさらに磨き、循環型・低炭素・自然共生社会づくりを進めるとともに、環境に配慮した快適で、安心して出かけられるまちづくりを進め、県民が真に暮らしの豊かさを感じられる、世界の中的「環境・エネルギーフロントランナー」として発展することを目指します。

《主な取組み》

〇とやま型スマートシティの形成

<環境にやさしい次世代エコタウンづくり>

- ・資源効率性・3Rの推進によるゼロエミッション社会の実現（食品ロス・食品廃棄物対策、廃棄物需給のマッチングなど）
- ・「ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）」の定着（太陽光発電、高効率な空調設備や給湯設備等の導入、高断熱化などにより、エネルギー消費量が正味で概ねゼロ以下となる住宅）
- ・マイクログリッドシステムにより、工場で使用する電力をすべて再生可能エネルギーでまかなう環境負荷の少ない次世代工場団地の整備

<環境・エネルギー新技術の普及>

- ・エコカー用スタンド等の全県的なインフラ整備による県内全域エコカー普及の実現（電気自動車、燃料電池自動車、水素自動車、ソーラーエネルギーを活用した自動車の普及）
- ・戦略的創造研究推進事業（ERATO）の「浅野酵素活性分子プロジェクト」の研究成果による、微生物や動植物の酵素を用いた環境負荷の少ない有用物質生産技術（ホワイトバイオテクノロジー）の普及
- ・再生可能エネルギーの安定供給に資するスマートグリッド（次世代送電網）の全県整備（高性能蓄電池の導入や電気自動車の蓄電池としての代替利用などによる需給バランスの制御）

取組みの内容

○環境にやさしいエネルギー技術の開発

<地域特性を活かした新たなエネルギーの活用>

- ・地熱やバイオマス、風力、波力、雪氷熱、地中熱などの再生可能エネルギーを用いた発電の低コスト化や実用化、地域活性化の取組みの推進
- ・中小河川や農業用水等で発電できる低コスト・高効率なスーパー小水力発電の全県展開
- ・太陽光エネルギーの電気変換効率の向上に伴う、県内におけるメガソーラー発電所整備の促進（雨や雪、曇天にも強く、少ない面積でも大きな出力が得られるソーラーパネルや、複雑な表面に塗布できる色素増感型太陽電池の普及など）
- ・マイクログリッドシステムと地元産の再生可能エネルギーを組み合わせた地産地消型の安定電源の確保に向けた研究開発

○快適環境空間の形成

<安心お出かけ空間の形成>

- ・スマホ一つあれば、利用希望情報を送信するだけで必要な交通が確保され、発着時間の連絡や決済などのサービスも提供される「公共交通提供システム」の整備や自転車専用レーン等の整備充実などにより、安全・便利に暮らせるまちづくりの推進
- ・自動運転技術を活用したバスやタクシーを、交通不便地域や都市部のラストワンマイル（公共交通と自宅や目的地までの数キロ程度）に導入することにより、安心快適に移動できる環境を整備
- ・ウェアラブル機器等を活用した子どもの緊急防犯ネットワークシステムや視覚障害者の歩行支援システムの整備
- ・AI や IoT 技術を活用した、降雪や積雪に対応可能な自動運転による次世代型交通システム等に関する研究開発
- ・リアルタイムで集約した災害の予測情報や災害情報を官民で共有し、瞬時に発信する仕組みの構築により、住民の避難を円滑化

6. 世界ブランド「立山黒部」発信構想

取組みの内容

《趣旨》

本県は、標高 3000m級の立山連峰をはじめとする変化に富んだ地形を有し、とりわけ、豊かで美しく、雄大な自然や観光資源を持つ立山・黒部は、県民のみならず国内外の人々をも魅了するものであり、県民の誇りとして大切に守っていくべきものです。

今後とも、立山連峰の魅力を再発見して積極的に発信していくとともに、その保全と、観光、教育、産業など様々な分野での利活用を一層推進していきます。また、今後さらに充実が見込まれる広域交通ネットワークの活用により、東アジア、欧米、オセアニア地域など国外からも多くの人々が訪れる世界水準の滞在型・体験型の山岳観光地を目指します。

《主な取組み》

○立山・黒部の文化発信拠点の形成

＜立山・黒部の文化の発掘・発信＞

- ・「立山砂防」の世界遺産登録を契機とした世界的な観光スポット化
- ・布橋灌頂会、「宿坊」宿泊や立山山頂までの古道を巡る登山などの立山信仰の復活体験と組み合わせた、新たなパワースポット・立山の魅力発信
- ・立山カルデラ、白岩堰堤等の常願寺川砂防施設を結びつけた「天涯ツアー」など、防災学習資源としての活用

＜雄大な自然を活かしたイベントの推進＞

- ・「16歳までに立山登山」を由来とする「立山詣で」など、霊峰立山における全国的・国際的な子ども交流イベントの開催
- ・ツール・ド・立山、立山トライアスロンなど立山での国際的スポーツイベントとの開催

○「世界の山岳観光地」の形成

＜立山黒部の世界ブランド化に向けたプロジェクトの推進＞

- ・国内初の現存する氷河「立山地域の雪渓群」など、独特の地形・自然を最大限に活かした世界のブランドとしての「立山黒部」の魅力発信
- ・立山の雄大なロケーションで富山湾の海の幸を味わえる上質なオープンテラスの整備など、本県の観光資源の強みの融合の促進
- ・立山黒部を訪れるあらゆる旅行者を満足させる上質で多様な宿泊施設の整備
- ・立山、黒部峡谷、宇奈月温泉をロープウェイなどで結ぶ周遊観光ルートの形成

取組みの内容

- ・ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドなど、世界の「アルプス」を巡る「富山発 世界のアルプスツアー」の実施や連携イベントの開催
- ・立山黒部や五箇山をはじめとした県内各地の観光地等を外国人が公共交通を利用して円滑に移動できるための「交通情報翻訳システム」の整備
- ・安全性に配慮した立山黒部地域における通年観光の実施
- ・立山黒部のライチョウ、高山植物などの希少種や絶滅危惧種など貴重な自然環境の保全と継承

<北アルプス周回・横断ルート構想の推進>

- ・北アルプスを囲む隣県との広域観光に資する、北アルプスゴールデンルート構想（富山～高山～松本～糸魚川～富山）の整備促進
- ・北アルプス横断道路（トンネル）構想の推進

7. 水がつなぐ豊かな海・里山構想

取組みの内容

《趣旨》

水深 1000mの深海を有し、日本海最大の外洋性の湾である富山湾は、深層水などの海洋資源に恵まれているだけでなく、広大な海洋観光空間としての活用など無限の可能性を有しています。こうした恵みは、天然のダムともいえる山々からの年を通して豊かできれいな「水」がもたらしているものであり、その水は川から海に流れ込み、水は雨や雪となって、また山々へと巡り戻っていきます。また、富山湾は、ユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が認められましたが、これは富山湾の美しさだけでなく、美しい海を守り、活かそうとする海と山に接する「里山」におけるこれまでの人々の営みも評価されたものです。

こうした豊かな海と水に恵まれている本県の可能性を存分に活かし、豊かで清らかな水資源を大切に守り、その魅力を積極的に発信するとともに、海・山・水を活かした都会では味わえない新たな里山ライフの形成や里山資源を活かした交流人口の拡大、さらには、富山湾の特徴を活かした海洋観光の振興や海洋資源の活用など、観光・産業・健康など様々な分野での利活用を一層推進することにより、きれいな水、美しい富山湾と豊かな里山を将来にわたって引き継いでいくことを目指します。

《主な取組み》

○「美しい富山湾」プロジェクトの推進

<新たな富山湾の魅力の発見>

- ・富山湾の深海にすむ魚や微生物など、珍しい海洋生物の調査の推進と海洋生物多様性の確保
- ・富山湾の生き物の生態やその保全活動を探訪する「富山湾海中・海上エコクルーズ」の実施
- ・美しい富山湾を後世に引き継いでいくための県民総ぐるみの森・里・川・海の環境保全活動の継続

<富山湾の恵みを活かした産業展開>

- ・天然のいけす「富山湾海洋牧場」の海洋ビジネス展開
 - 大規模養殖へのチャレンジ（イワガキや海藻類などの無給餌養殖、表層から深層までの多層型養殖）
 - ICT技術の活用（定置網魚群の遠隔監視）による水産業の生産性向上
 - 海洋レジャーなど観光業との連携による6次産業化の推進
 - 深層水を活用したサクラマスの完全養殖など、世界も注目する栽培漁業技術開発の推進
- ・深層水の知られざる効能の全容解明と、それを利用した健康・ライフケア製品やサービスの世界展開

取組みの内容

- ・将来の天然ガス資源として有望視されている「燃える氷」メタンハイドレートの活用研究
- ・富山湾の波による海面の上下運動や潮流を利用した波力エネルギー発電、深層水と表層水との温度差エネルギー発電、海上風力発電の推進

<多彩な富山湾観光の展開>

- ・伏木富山港のクルーズと富山きときと空港のチャーター便を組み合わせた「フライ&クルーズの推進」
- ・マリンスポーツや湾岸サイクリング、観光遊覧船、食などを組み合わせた、富山湾を巡るラグジュアリーツアーの形成
- ・新湊大橋をはじめとする富山湾岸道路を活用した「海の道」パノラマ観光の推進

○海・山・水を活かした里山生活の形成

<海・山近接の富山の魅力を活かした中山間ニューライフコミュニティの形成>

- ・里山資源の循環利用による持続可能なコミュニティづくり（森林バイオマスや小水力発電によるエネルギーの自給）
- ・長期にわたっての活躍が見込まれるスキルフルなヤングミドル層の移住促進（県産材による空き家の改築、農地・林地の提供等、ICTを活用したビジネス展開を支援）
- ・里山ファーマーズ・ヴィレッジの整備（子供から大人までの観光客が周年で楽しめる体験型・滞在型の魅力的なエリアの形成）
 - 農家レストラン・宿泊施設・体験型6次産業化加工施設等や、地域の資源（自然、食文化など）を活用し、「見る」「遊ぶ」「学ぶ」「食べる」を満喫
- ・中山間地域等の空き家等を活用した「里山芸術文化ヴィラ」における、様々な分野の若手芸術家等との交流や芸術文化体験活動の展開

○「水の王国とやま」の発信

<とやま水辺の回廊づくり>

- ・「千年の桜並木」などの桜がちな松川～いたち川～富岩運河～岩瀬の水辺空間を活かした文化などに出会える場の形成

<水資源を活用したビジネス展開>

- ・安全でおいしい「とやまの水」の世界展開
- ・浄化技術や小水力発電システムの海外輸出などによる発展途上国との技術協力として水資源開発を含めた海外展開、世界の水・エネルギー問題への貢献